

# 建屋流入抑制対策の全体概要について

2015年12月17日

東京電力株式会社

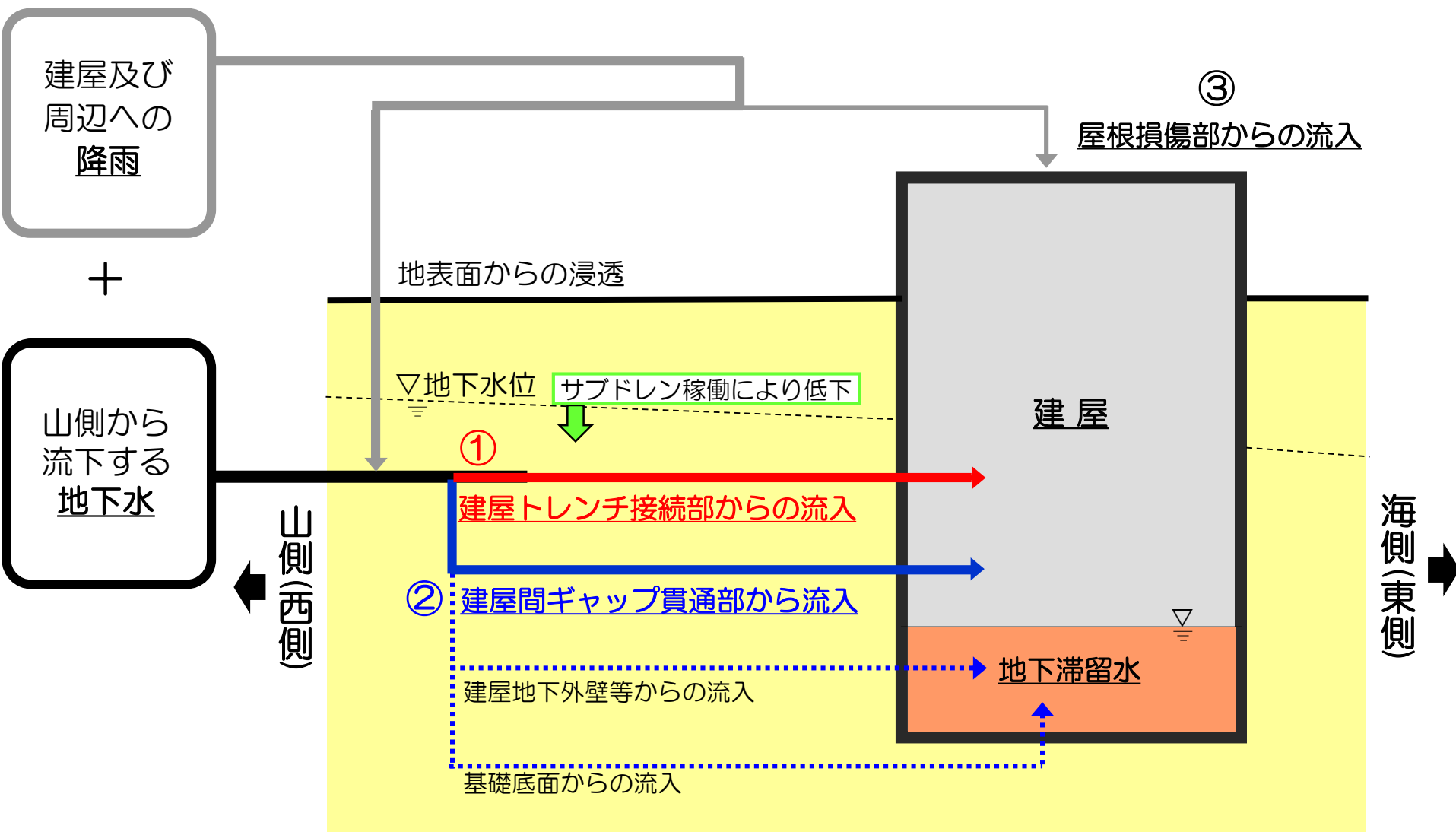


東京電力

---

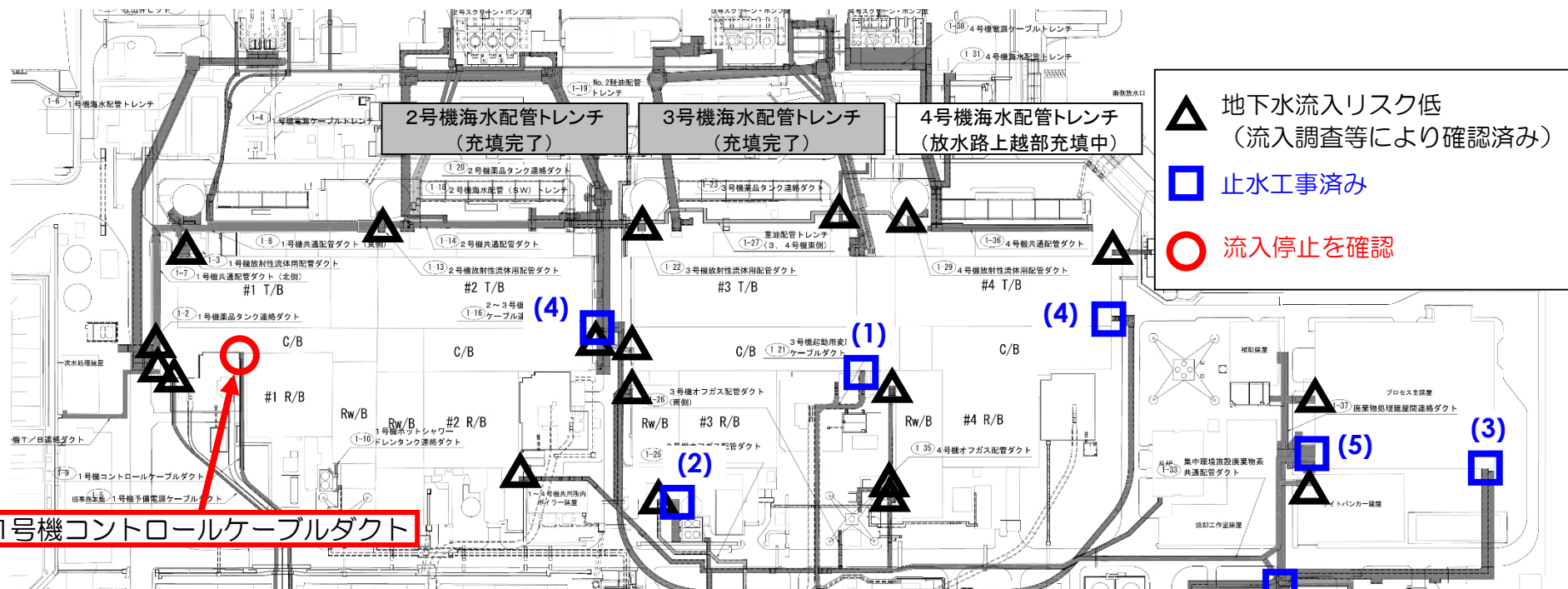
# 1. 建屋への流入経路

建屋への水の流入経路は、下記の通り分類される。



## 2. ①トレンチからの流入状況と今後の対策 (1/2)

- 建屋にトレンチが接続する箇所のうち、溜まり水(地下水)があるトレンチが建屋に接続している箇所を抽出し地下水流入調査等を実施。(建屋滞留水と連通がある海水配管トレンチ等は別途対策を実施。)
- 流入調査により地下水流入が確認されたトレンチについては順次止水工事を実施(※)。
- 流入が確認された箇所のうち、唯一流入が継続していた1号機コントロールケーブルダクトについては、サブドレン稼働による地下水位低下によって流入が停止していることを確認。(H27.11.12)



**1号機コントロールケーブルダクト**

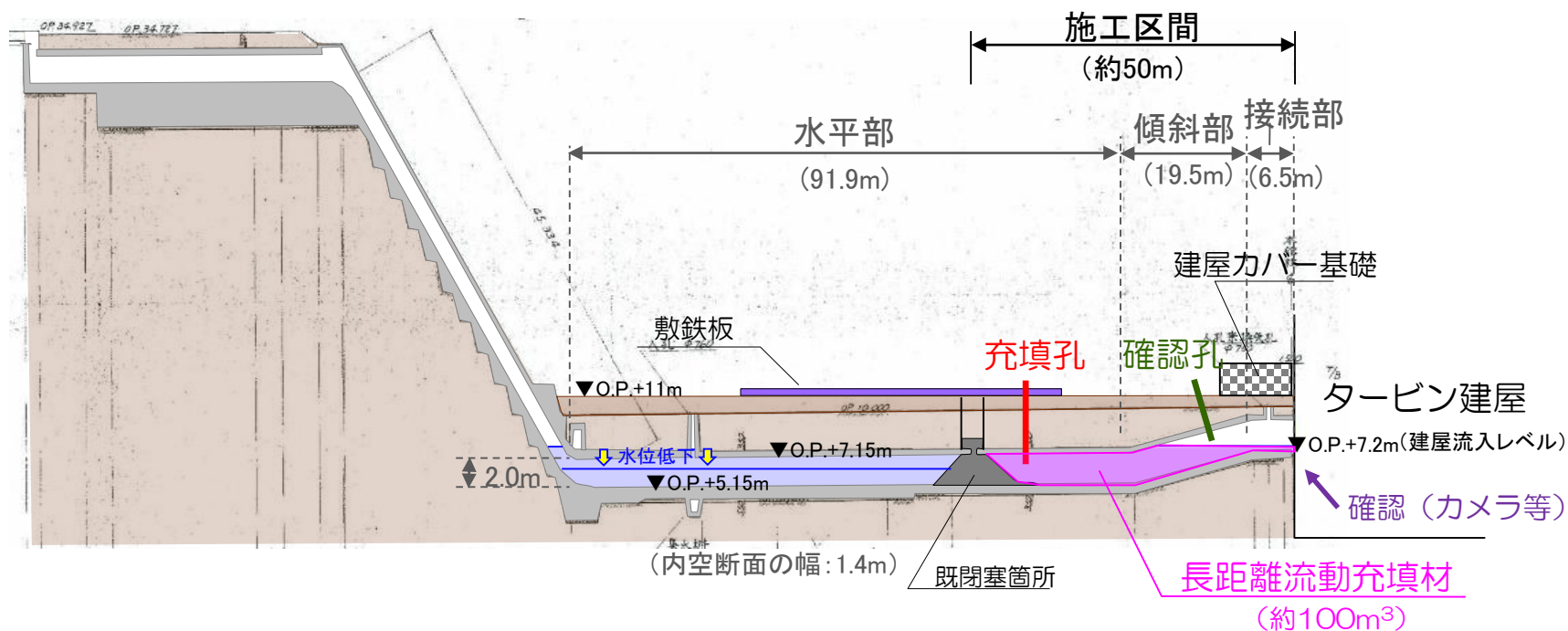
**※止水工事実績**

(1) 3号機起動用変圧器ケーブルダクト (#3 C/B : H24.12止水完了)	(2) 集中RW連絡ダクト (#3 U/B : H25.3止水完了)
(3) 共用プール連絡ダクト (プロセス主建屋 : H25.3止水完了)	(4) 2~4号機DG連絡ダクト (#2 T/B・#4 T/B : H25.7止水完了)
(5) HT I 連絡ダクト (HT I 建屋・プロセス主建屋 : H26.12充填完了)	

## 2. ①トレンチからの流入状況と今後の対策 (2/2)

### 1号機コントロールケーブルダクト内部充填工事の実施

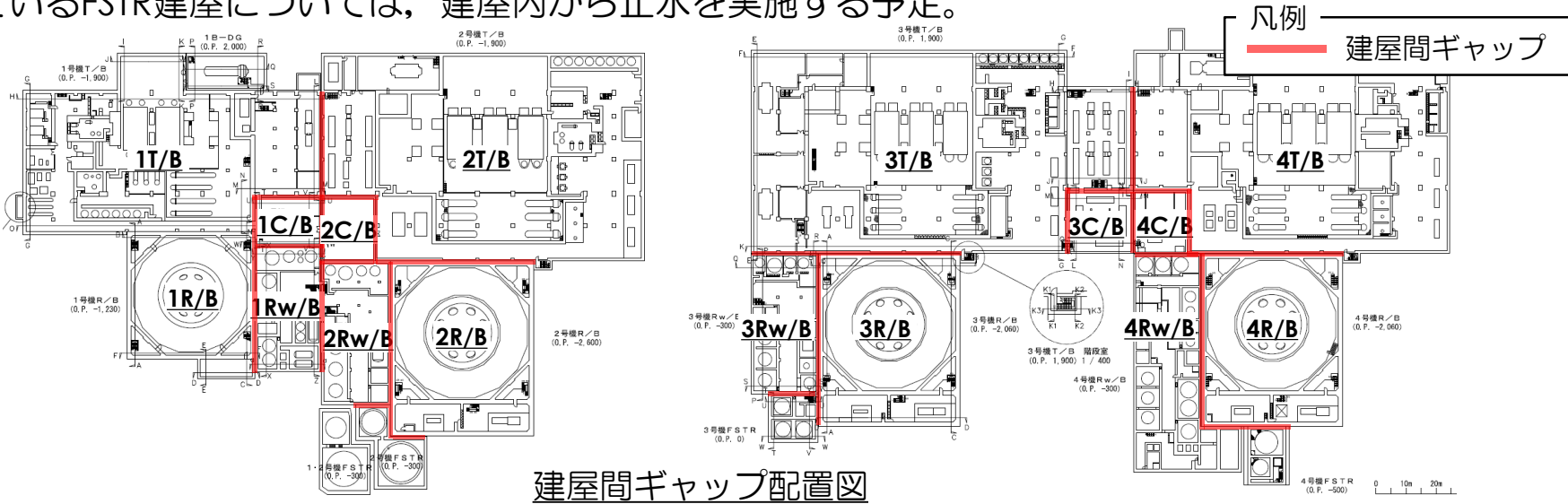
- 1号機コントロールケーブルダクトについては流入停止を確認しているが、大雨等による再流入が懸念されることから、既閉塞箇所～タービン建屋間を充填する工事を行い、梅雨時期（H28.5月頃）までの充填完了を目指す。



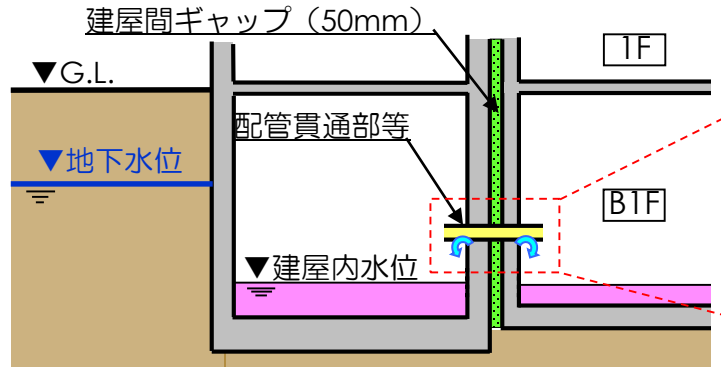
1号機コントロールケーブルダクト縦断概要図

### 3. ②建屋間ギャップ貫通部他からの流入状況と今後の対策（1/3）

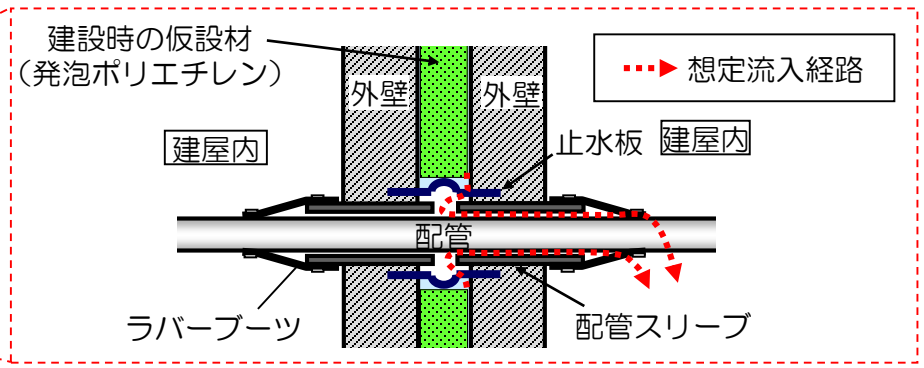
建屋間ギャップには貫通部が多数あることから、主要な地下水流入経路になっていると想定される。建屋間ギャップは50mmと狭隘であり、建屋外から貫通部を止水することは非常に困難である。そのため、サブドレン等によって今後も地下水位を段階的に下げていくことで建屋内外の水位差を小さくするとともに貫通部を露出させ、地下水流入抑制を図っていく。建屋内にアクセス可能で流入が確認されているFSTR建屋については、建屋内から止水を実施する予定。



建屋間ギャップ配置図



建屋間ギャップ断面イメージ図

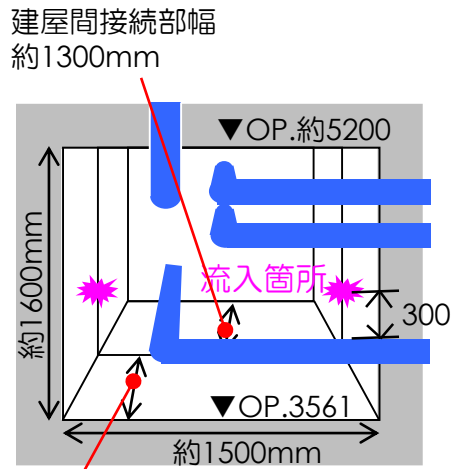


詳細イメージ図

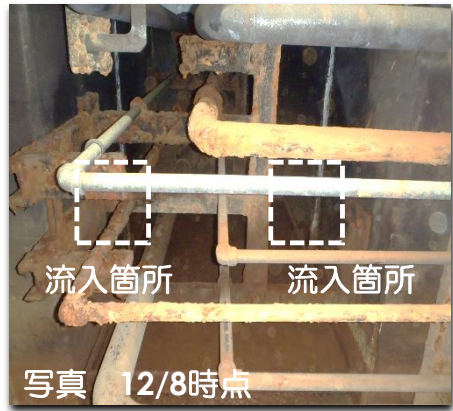
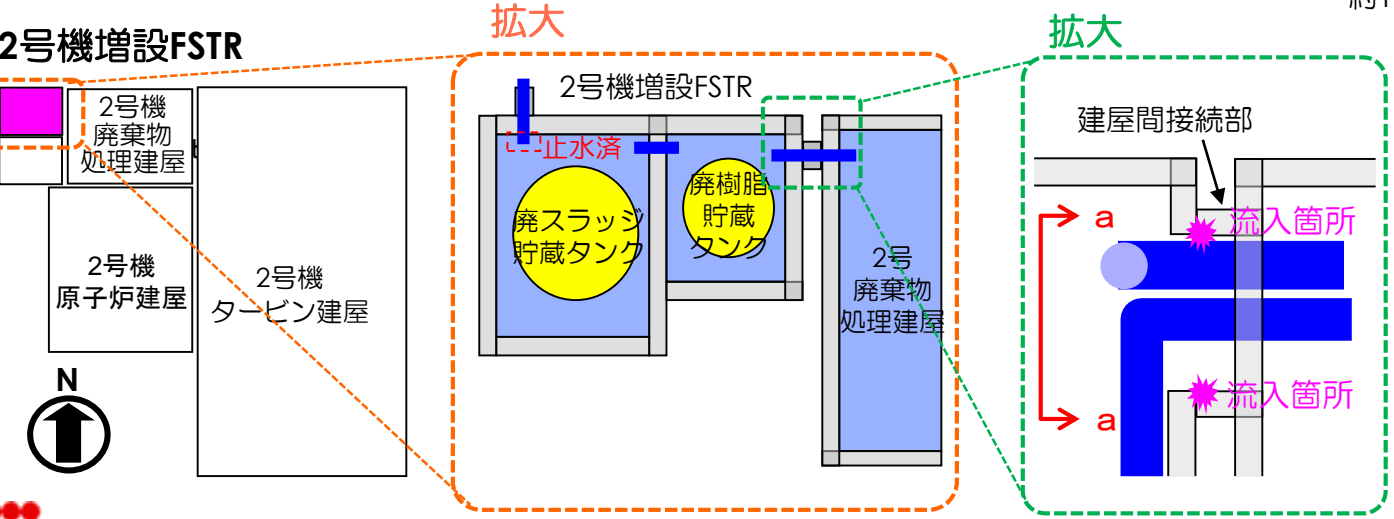
# 3. ②建屋間ギャップ貫通部他からの流入状況と今後の対策 (2/3)

## 2号機増設FSTR建屋への地下水流入状況と対策

- 2号増機設FSTRと2号廃棄物処理建屋の接続部から、2号機増設FSTR側に地下水流入が確認されている。
- 推定流入量は当初（流入確認日：H27.5.21）は約12m<sup>3</sup>/日であったがサブドレン稼働後の9月中旬以降は減少傾向にあり、現状で約2m<sup>3</sup>/日まで減少した。
- 今後更に流入を抑制するため、止水対策を実施する。（H28.2月末を目途に工事実施予定）



増設FSTR壁厚 約1000mm  
a-a矢視

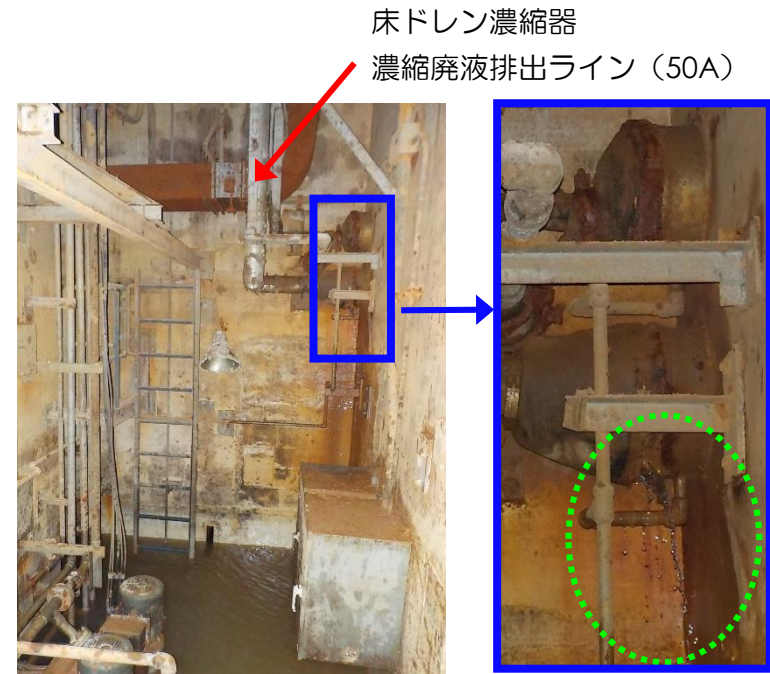
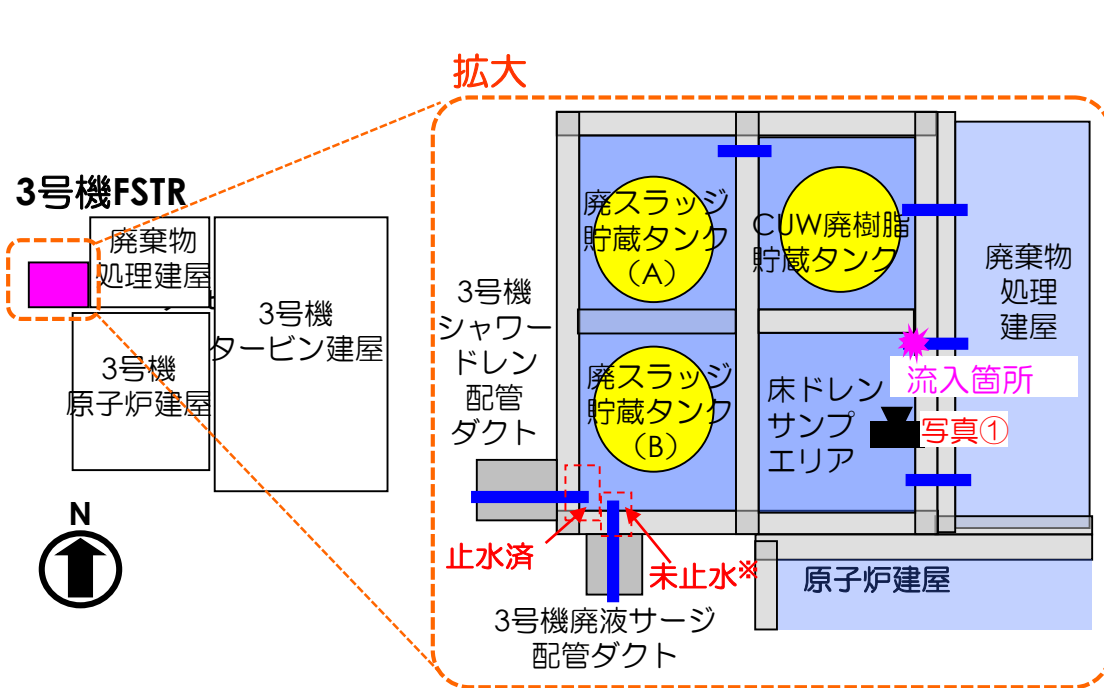


a-a矢視写真

# 3. ②建屋間ギャップ貫通部他からの流入状況と今後の対策 (3/3)

## 3号機FSTR建屋への地下水流入状況と対策

- 3号機FSTRと3号機廃棄物処理建屋の建屋間ギャップ配管貫通部から、地下水流入を確認。(H27.12.3)
- 推定流入量は8~20m<sup>3</sup>/日程度。
- 当該箇所からの流入を抑制するため、止水作業を実施する(12月末に止水完了予定。)



写真① 床ドレンサンプエリア 流入箇所拡大写真

※降雨の際に配管貫通部からの流入有り。同様に止水対策を実施する。

## 4. ③屋根破損部からの流入状況と今後の対策

建屋屋根の一部は水素爆発の影響で破損しており、当該部からは降雨時に雨水が流入している。

- 1R/B, 3R/B, 3Rw/B : 燃料取り出し作業に併せて雨水流入対策を実施していく。
- 1Rw/B, 2Rw/B, 3T/B : 現状は重機によるアクセスが困難であり、高線量で有人作業も困難であるため重機ヤード整備, 無人化工法を検討し, 燃料取り出し作業と干渉調整等を行いながら雨水流入対策を実施していく。

